

S-24 気候変動適応の社会実装に向けた 総合的研究

ポイント

- 適応策の社会実装に関する幅広い分野の科学的研究を統合的に推進
 - 科学的知見の含有する様々な不確実性や、適応策のコストと効果、限界、実施にかかる時間、適応策間や他分野の施策との相乗効果やトレードオフを考慮
- 様々なレベルの適応主体を科学的に支援するための仕組み作り
 - 流域や都市という「場」や様々なステークホルダーレベルで適応策を実践するための科学的知見の創出と
その活用

国立環境研究所 気候変動適応センター 股岡靖明

環境研究総合推進費 S-24シンポジウム

令和8年2月13日(金)

研究の背景

- IPCC WGII AR6：気候変動は危険かつ広範な自然破壊を引き起こし、**適応の努力にも関わらず気候変動は数十億人の生活に影響を及ぼしており**、特に世界人口の半数以上が住んでいる都市部では気候変動影響が増長している。また、気候変動は、天然資源の持続不可能な利用、生息地の破壊、都市化の進展、不均衡と組み合わざり、適応能力を低下させ、温暖化が少しでも進むごとにリスクは増加する
- 我が国でも気象の極端化、**健康や農作物への悪影響、生態系の変化等**を日々の生活においても**実感**している。今後、気候変動の進行に伴い、猛暑や豪雨による**リスクは更に高まる**ことが予測されている
- 中でも**熱中症死亡数は増加傾向**が続いている、近年では年間千人を超える年が頻発している。自然災害による死亡数をはるかに上回っている現状。今後、気候変動の進行に伴い極端高温の発生頻度も増加すると見込まれ、我が国において熱中症による被害の拡大が懸念されている
- 進行する気候変動とその影響はもはや「遠い未来にいつか来る課題」ではなく、「今まさに直面している課題」であり、将来の影響を回避・軽減するために如何に備えるかだけでなく、現在生じている影響にどう対応するかも含め、**適応の社会実装が喫緊の課題**となっている
 - ◆ 幅広い分野を対象として、様々な主体による適応策の実践を支える科学的知見の創出が求められている

研究の必要性

本課題の対象

気候変動適応の社会実装に向け
「分析・探索」と「解釈」の研究が必要

これまでの関連研究(S-18など)

仮想世界
での評価

適応の
効果を
検証する

過去の影響
現在の影響
将来のリスク

分析・探索

③

目的	選択肢	コスト	便益
多分野の目標とトレー ドオフの可 能性	現実世界を 変えるため の別の行動	準備, 実施, 残存リスク, 相互影響	成功の指標 としての 機会と成果

解釈

④

意思決定者

推進費S-18

◆共通の影響評価枠組みを構築

影響予測等の基盤となる気候シナリオ (CMIP6) や社会経済シナリオを整備

◆幅広い項目の気候変動影響評価

水害から農業、健康まで数多くの分野の参画を促し、広いセクターの影響評価を実施

◆国民生活・都市生活分野や経済評価に取組むテーマを設置

交通、まちづくり、QoL、災害等の経済的波及効果などの研究を実施

◆影響予測モデルに基づく適応策の評価

多くの影響項目について、適応策の定量評価を実施

② 科学・データ・知識

センス
メイキング
/モデリング

① 人々・利害関係・
政策・規制・政治

地域
分野・経済
国家・多国籍企業
国連 (SDGs,
UNFCCC)

現実世界

相互作用するシステム
社会、産業、経済、環境、地球システム

データ

評価

フィード
バック管理

調整

⑤ 緩和、適応計画、
対応/復興

実行

選択された
アクション

目的・目標

《目的》気候変動適応が社会に実装されるために必要な科学的知見の創出

- 適応に関する目標の設定《目的》
- 目標達成に十分な適応策選定に係る方法論の構築《選択肢・コスト・便益》
- 長期的な適応戦略策定に係る方法論の構築《探索》
- 適応策実践における諸課題の解決《解釈》

エビデンスに基づく政策立案、他の施策とのシナジー・トレードオフ、法や社会制度との関係、リスクの受容、適応策実施に係る合意形成など



《目標》適応策の実践を支援する「気候変動適応実践支援システム」の開発

- 地域の現状を考慮し将来の様々な気候変動リスクに応じた適切な施策の選択・実践に関する枠組みや方法論の構築
- 様々なステークホルダーが議論可能となるよう、分野横断で複数の適応策の選択・実施手順（適応経路）を検討する手法及び作成したツールやマニュアル等はA-PLAT等を通じて提供
 - ① 適応策データベース（コスト、効果、限界、実施にかかる時間、適応策間の相乗効果やトレードオフ、など）
 - ② 複数分野・項目を対象とした1kmメッシュの全国影響予測結果群（適応策の効果の有無を含む）
 - ③ ①と②を統合した、分野横断の適応経路推計ツール
- 将来の熱中症対策の研究基盤「熱中症プラットフォーム」の開発
- 文科省の気候変動予測先端研究プログラムや推進費・科研費など他の研究プログラムとの連携・成果の活用

研究構成の考え方

● テーマ構成の考え方

- **流域**や**都市**という「**場**」や**様々なステークホルダーレベル**でテーマを設計することで分野間の融合を促進
- 気候変動による影響が甚大とされる暑熱による**健康影響（熱中症）**についてのテーマを独立して設置し、迅速な適応策の提案・実践を図る
- 地域気候変動適応センターや民間企業の参画を促し、適応策の実践につなげる
- 5テーマ、16サブテーマ程度を想定

● テーマ構成・テーマ代表

- **【総括テーマ】**：気候変動適応実践支援システムの開発に関する研究：基本設計(共通シナリオ等), 気候変動適応実践支援システム開発, 全体成果のとりまとめ. **肱岡靖明（国立環境研究所）**
※長期的な適応戦略策定に係る方法論の構築
- **【地域テーマ】**：主に農村部・山間部における、農業、森林管理、土砂災害、感染症、害獣管理、河川洪水と流域治水等における適応. **櫻井玄（農業・食品産業技術総合研究機構）**
※適応に関する目標の設定 & 目標達成に十分な適応策選定に係る方法論の構築
- **【都市テーマ】**：主に都市域における主要な気候変動リスク、複合影響や他分野への波及的影響、分野間の相互影響への適応. **真砂佳史（国立環境研究所）**
※適応に関する目標の設定 & 目標達成に十分な適応策選定に係る方法論の構築
- **【適応社会実装テーマ】**：地域での適応戦略検討、適応策実践における課題等に取り組む.
栗栖聖（東京大学） ※適応策実践における諸課題の解決
- **【暑熱健康テーマ】**：タイムラインを追っての解析等を可能とする熱中症プラットフォームや他分野とのシナジー効果を新たに生み出す熱中症予防対策の開発. **横堀将司（日本医科大学）**
※適応策実践における諸課題の解決

課題の全体概要



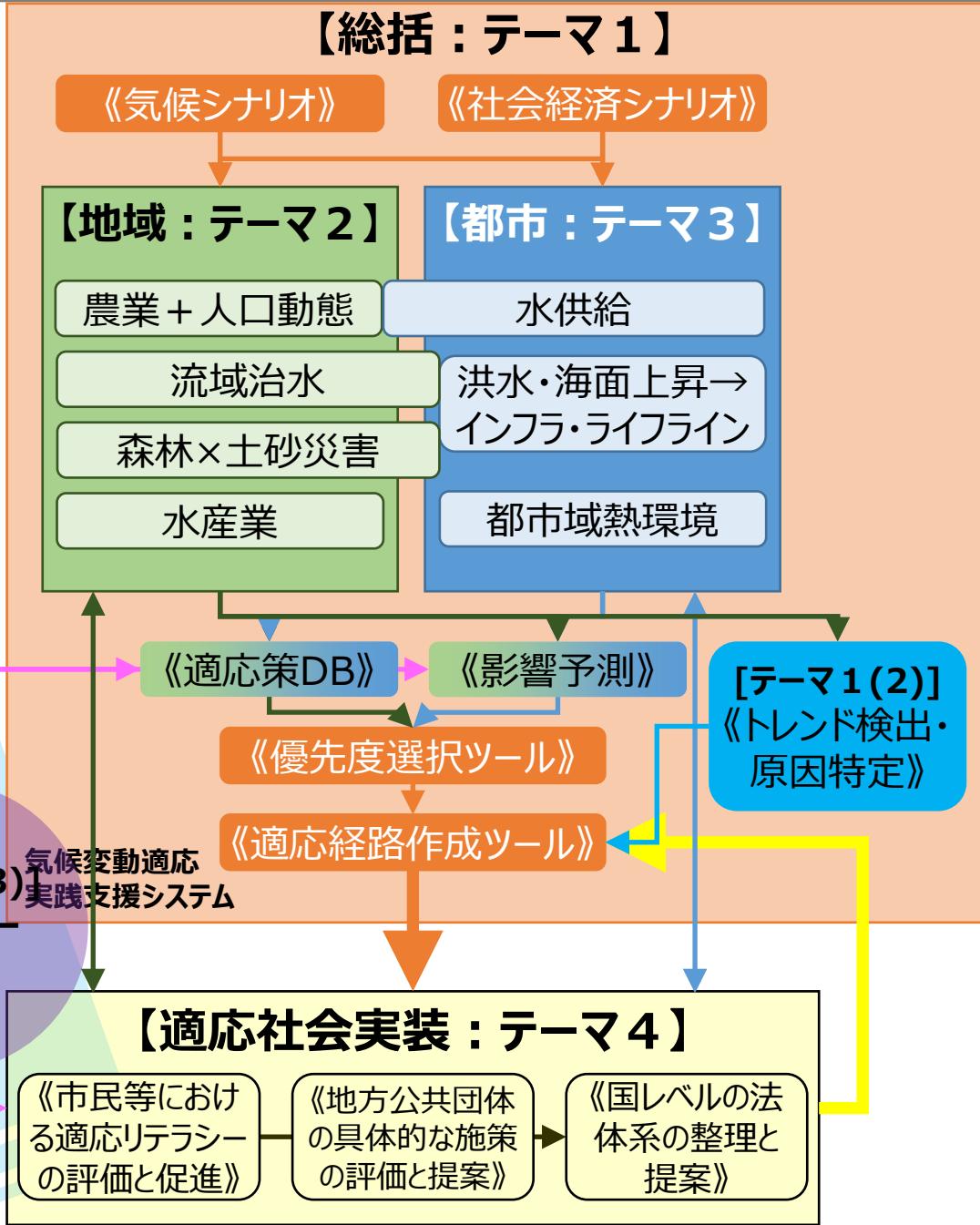
【暑熱健康：テーマ5】

《熱中症プラットフォーム》

《熱中症弱者を対象とした環境リスク評価》

《領域横断的・学際的熱中症環境リスク評価》

【テーマ1(3)】 ストーリーライン

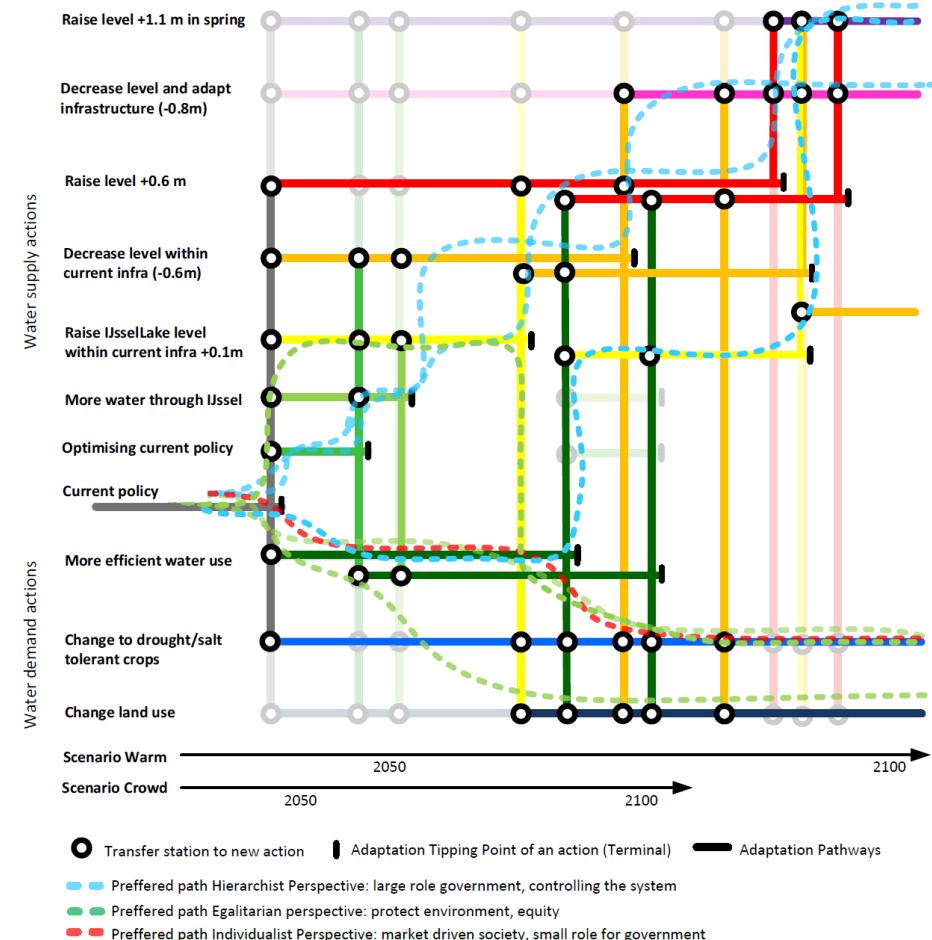


テーマ1：気候変動適応実践支援システムの構築と応用に関する研究

目標：様々なステークホルダーが議論可能で複数の適応策の選択・実施手順（適応経路）を提供可能な

「気候変動適応実践支援システム」の開発

- 全体方針を提示して、各サブテーマから提供される影響予測結果群と適応策データベース（コスト、効果、限界、実施にかかる時間、適応策間の相乗効果やトレードオフなど）を組み込んだ
適応経路推計ツールを開発
- 他のテーマと連携して、過去から現在までの**影響の変化傾向とリスク度合いを推定**
- プロジェクト全体の成果を踏まえて、持続可能な将来像に繋がる複数の**適応のストーリーライン**を開発し、適応を推進するステークホルダーの理解を促進



Haasnoot, M., Kwakkel, J.H., Walker, W.E., ter Maat, J., 2013. Dynamic adaptive policy pathways: a method for crafting robust decisions for a deeply uncertain world. Global Environmental Change 23, 485–498

課題全体の成果を統合▶▶▶気候変動適応実践支援システムの構築

テーマ2：気候変動に対する地域単位の包括的な適応戦略の解析・創出

目標：主に**農村部・山間部等の地域**を対象とした、農業、森林管理、土砂災害、感染症、害獣管理、河川洪水、流域治水、沿岸漁業と養殖等における気候変動への適応オプションを経済性も含めてそのコスト・ベネフィットを詳細に解析するとともに、分野間の交互作用を考慮した地域として包括的な適応戦略を創出・評価することを目指す

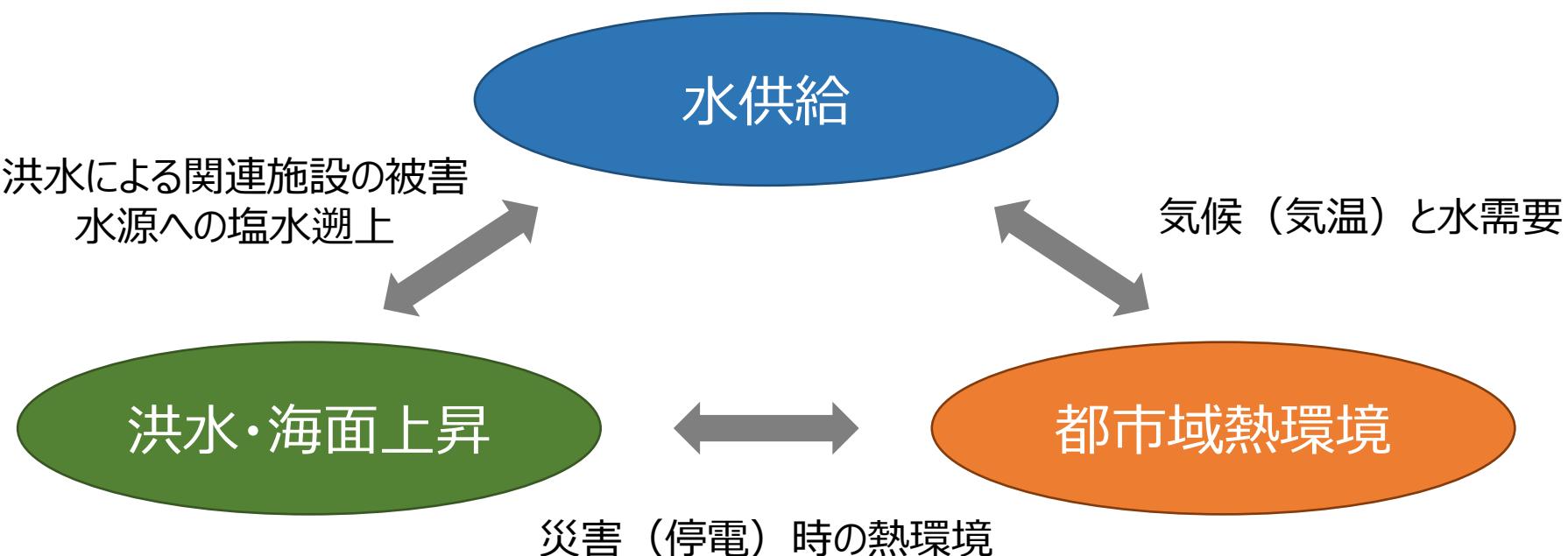
これまでの気候変動適応研究では、分野それぞれにおける気候変動影響と適応策が評価されてきたが、実際には**それぞれの分野の適応策は他の分野の適応策に影響**する。また、経済性の評価も十分ではない。本テーマでは、それぞれの分野における**適応策の経済性を詳細に評価**するとともに、将来の地域の人口動態・居住地域の変化を考慮したうえで、分野間の交互作用を考慮した**包括的な適応戦略**を提示する



テーマ3：都市域の気候変動リスク評価と適応戦略の解析

目標：主に人口が集中する**都市域**において重要な気候変動影響を評価し、実現可能性の検討も含めた**適応策・適応戦略を提示**

- 都市域の主要なリスクとして、**水供給**、**自然災害（洪水・海面上昇）**、**都市域熱環境**を対象として3つのサブテーマを設定
- サブテーマで対象とする分野間の相互影響や他の分野および緩和策との関連（**複合影響**、**分野間の影響の連鎖**、**他の施策とのシナジー・トレードオフ**）も解析
- **人口減少、超高齢化、土地利用変化**などの社会的課題も考慮



3つのサブテーマと分野間の相互影響の例

テーマ4：適応の社会実装に向けた異なるステークホルダーレベルでの課題の抽出とソリューションの提案

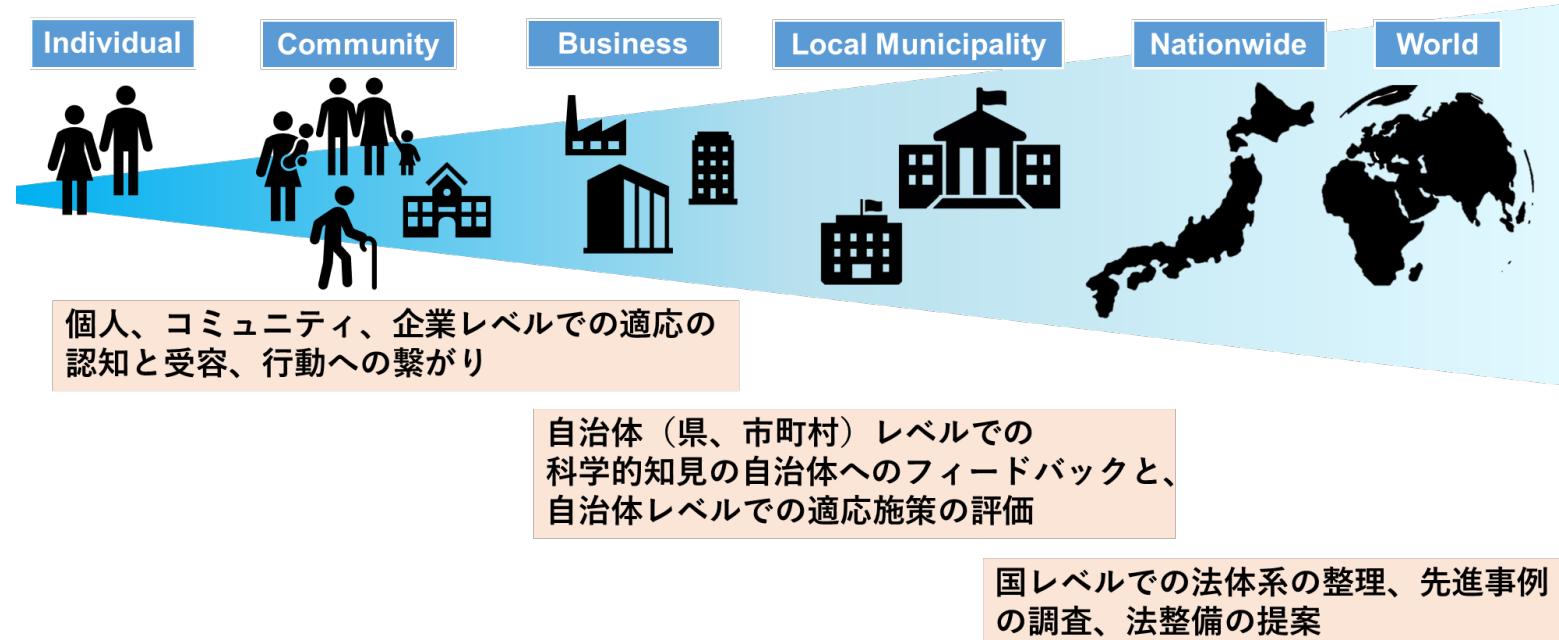
目標：気候変動適応の実践においては、**様々なステークホルダーレベル**での現状と課題を理解し、適応促進に向けた戦略を提案することが必要。本テーマでは、**個人、コミュニティ、企業、地方公共団体、国**といった異なるレベルを対象に、**適応の現状**、現場での適応における**課題、制約、促進要因**を明らかにし、**適応促進に向けた施策の提案と評価**を実施。

▶▶▶各ステークホルダーレベルの実情に即した適応戦略を練ることが可能となり、各地域においてよりきめ細やかな気候変動適応計画策定へと発展可能

＜研究としての新規性＞

これまでの適応研究では、各分野、それぞれの対象地域において、個別にステークホルダー分析がなされることはあったが、ひとつのテーマ研究として、**異なるレベルのステークホルダーを包含し、適応戦略を検討する点**に本研究の新規性がある。

【適応の社会実装研究に必要な各レベルでの取り組み】

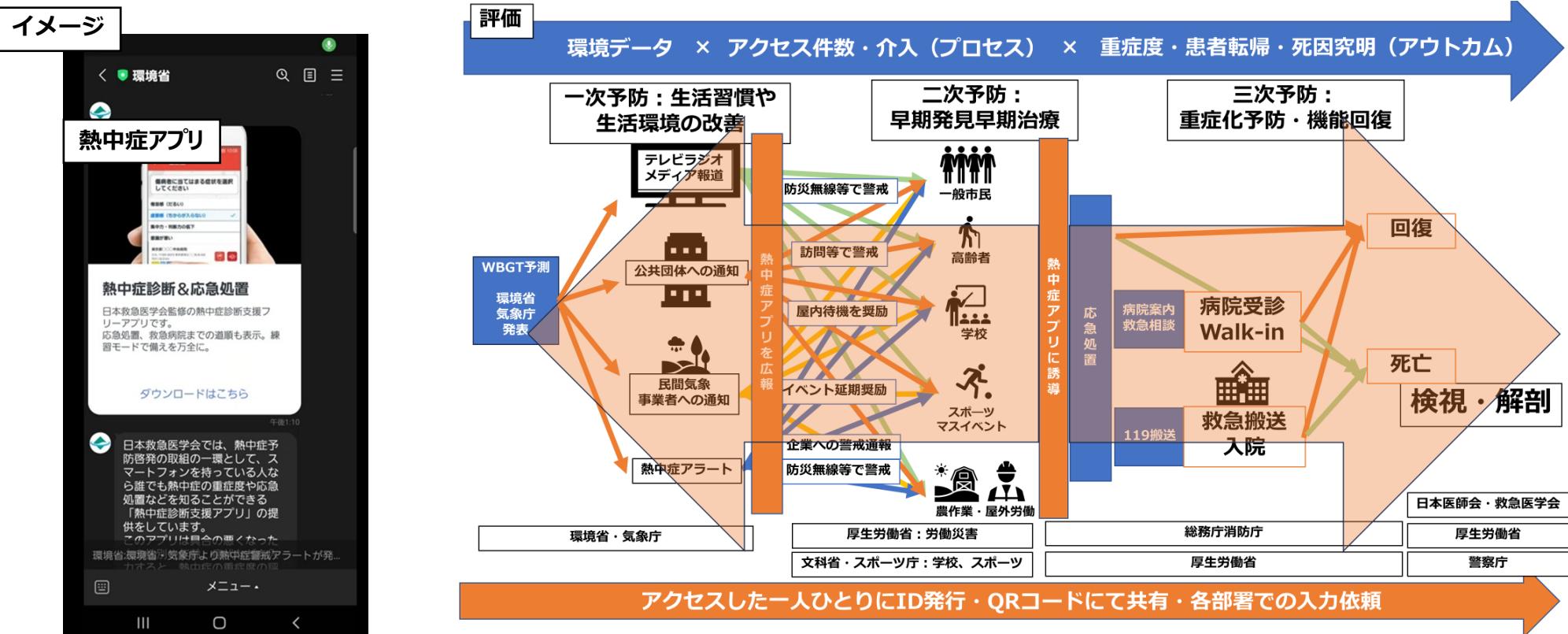


テーマ5：気候変動に伴う健康影響に関するデータ収集・データドリブンな解析

目標：即時的・領域横断的データ収集が可能となる熱中症プラットフォームの開発

熱中症患者発生時のWBGT等環境因子を追跡し、各領域関連の横断的解析が可能

ポピュレーションアプローチ（一次・二次予防）×ハイリスクアプローチ（三次予防）を有機的に組み合わせ、影響評価・適応のデータをシェア。社会の適応行動を促進する枠組みを検討し、2030年熱中症死亡者数の半減を目指す



熱中症アプリを開発・活用・A-PLATとの連携：環境因子の学際的・領域横断的データを取得

期待される成果・政策貢献

- 「**気候変動適応実践支援システム**」 様々な適応主体が統合的・俯瞰的に適応を捉え「最適な戦略の選択」▶▶▶地方公共団体等による計画的かつ適切な適応取組の実施や充実、課題となっている部局間連携などに貢献する科学的基盤
 - 「地域気候変動適応計画作成支援ツール」と連動させ、各地方公共団体の計画に具体的な道筋を落とし込み実現性を向上 + 人員や科学的知見が十分ではない**市区町村の適応取組に係る負担を軽減**
 - 現在・将来において**他の研究プロジェクト等で創出される科学的知見や、各地方公共団体で収集・整備される情報の統合を想定した仕様の汎用性**（複数分野間での格納・表示形式の統一化等）を目指した構築
- 事業者に対して各社拠点・サプライチェーンにおける**気候リスク管理と適応ビジネスの検討に資する情報を提供**
- **2030年に熱中症による死者数の半減**を目指す具体的な施策として活用
 - 「**熱中症プラットフォーム**」 将来の熱中症対策の研究基盤。国内外の民間を含む研究に活用▶▶▶我が国が適応先進国として国際的な気候変動対策にも貢献
- 研究成果は「**気候変動適応情報プラットフォーム（A-PLAT）**」から公開を想定

新規性・独自性

- 適応計画と適応策の実践におけるギャップを埋めるには、短期的な計画にとどまらず、長期的かつ協調的な道筋を策定し、時宜を得た効果的な実施を確保するための継続的な適応を可能にする条件を整備することが必要（IPCC WGII AR6）
 - **複数分野を対象として**将来のリスクを改善するための**さまざまな適応策選択のコストと便益を評価する研究**は世界的にも例が限られており、新規性も独自性も非常に高い
 - 「場」を設定して、**複合的または連鎖的な影響の評価と適応策の検討を定量的に行う研究**は非常に新規性が高い
 - 物理的影響と適応に加え、**適応における社会課題**（ガバナンス、制度、政策）に関する研究は世界的に限られており新規性が高い
- 我が国において暑熱環境による健康被害の即時性の高い発生者数の把握は困難。軽症・中等症患者の行動様式や患者を取り巻く環境については未解明。熱中症の発症から重症化、死亡といったタイムラインを追っての個々の患者評価自体が困難。労働、学校現場、医療機関、解剖例などのデータを繋げた患者の経時的評価と発症要因の抽出にも課題
 - 热中症対策に必要な**基本的データ・研究のプラットフォームとなる領域横断的研究が必須**▶▶▶重症化予防を促しつつ個々の患者データを領域横断的に取得する熱中症アプリを開発+シナジー効果を新たに生み出す熱中症予防の方略の開発
 - 発症時の位置情報（屋内・屋外）・発症様式（運動・安静時）環境（WBGT・エアコンの使用等）の情報を個々の患者よりタイムリーに取得した、**地域性や季節性、年齢や労作等をも加味した重み付けによるより精度の高い熱中症予防**の取り組み支援